

研究室配属実習レポート

正直、研究室の配属先は当初の希望通りではなかった。法医学や救急などの分野を志望していたが、あまりにも希望者が多かった。そのため、配属先の決め方を単に興味のあるところから自分のためになりそうなところへ変えたのだ。そして、当研究室はまさに私の期待通り、それどころか期待を上回る場所だった。なぜなら、担当の桑迫先生は学生のためになることを重要視して指導して下さったからだ。

研究室で得たことは多い。私はどちらかといえば臨床医に進むつもりでいるが、それでも研究の基礎的なことは知っているべきである。どの研究をするかで細かな方法は違ってくるかもしれないが、共通する部分を教えていただいたと思っている。細胞培養に関わる知識・実験手技から論文の読み方まで、その内容は幅広かった。細胞培養では、継代を繰り返すことでクリーンベンチ内での操作に慣れることができた。個人的には、パスツールの扱いが好きだった。遺伝子導入では、発現系の特徴や細胞の数え方を知り、AM受容体の発現及び細胞内移行を観察することができた。リガンドの調製では、的確な濃度計算の重要性を学んだ。論文の読み方では、キーワードの背景知識が論文を読み込む上で必要になってくると、abstractの構成理解、また特に図（結果）の読み取りが大事であることを学んだ。

実験では遺伝子導入や大腸菌の形質転換も行い、PCRを数回行った。これは生化学の実験でも経験したことだったが、当時は何の意味もわからずに操作をしていただけだった。しかし今回の研究室配属では、PCRの各操作でどのような反応が起きているかや、各試薬の働きを理解しながら実験操作を進めることができた。これはPCRに限らず、今回行った他の実験操作にもいえることである。実験において大切なのは、自分が進めている操作の意味を理解していることだと再認識した。

実験を行うには様々な材料が必要になってくるが、それらはカタログで注文することができる。各試薬や実験目的に合わせたキットが存在した。実験でもキットを用いたが、その中にはプロトコルが入っていて誰でもできるようになっている。何でも手軽にできるように開発されていくが、そこには使用する側の知識と理解が大事になってくると思った。

研究室配属では、桑迫先生にずっと付きっきりで指導していただき、大変お世話になった。先生はユーモアも持ち合わせていて、授業を受けたときとは違った側面も知ることができた。先生がいる研究室を選んで本当によかったと思っている。三週間の間、ありがとうございました。